

5歳児の新聞紙を用いた身体表現遊びの実践的研究

— その2：動作分類から捉えて —

**A Practical Study of Physical Expressive Play Using Newspapers for  
5-Year-Old Children**

**-Part 2 : Study of the Movement Classification-**

高 原 和 子・瀧 信 子・矢 野 咲 子

Kazuko Takahara · Nobuko Taki · Sakiko Yano



# 5歳児の新聞紙を用いた身体表現遊びの実践的研究

## — その2：動作分類から捉えて —

### A Practical Study of Physical Expressive Play Using Newspapers for 5-Year-Old Children -Part 2 : Study of the Movement Classification-

高原 和子・瀧 信子\*・矢野 咲子\*

Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Sakiko Yano

キーワード：新聞紙遊び，基本的動作，5歳児，環境設定

#### 研究の背景と目的

子どもの生活の中心は遊びであり，遊びをとおして人として生きていくために必要な知性や社会性，身体性などの基本的な部分・基礎を学ぶ。なかでもからだを使った遊びの貢献度は高い。

からだを使った遊びは，体力・運動能力を養い，動作や運動技能の基礎を育み，様々な遊びのなかで工夫する力（知性）や人とのコミュニケーション力（社会性）も身につけていく。このようなことから，子どものからだを使った遊びは重要であり，そのための生活環境，特に自由に遊べる環境づくりは最も大切にすべきことと考えられる。

このことは，「幼稚園教育要領」<sup>1)</sup>「保育所保育指針」<sup>2)</sup>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」<sup>3)</sup>（以下3法令）にも示されており，教育及び保育の基本を踏まえ，「豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かたり，できるようになったりする」「気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする」「心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする」を掲げ「資質・能力を一体的に育むよう努めるもの」とされている。そのため，保育者には，それら

が体験できる保育環境を構成し，工夫することが求められている。

一方，文部科学省は，平成19年度から21年度にかけて「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」<sup>4)</sup>を実施し，その調査結果を踏まえ，2012年に「幼児期運動指針」<sup>5)</sup>と，それを具体化した「幼児期運動指針ガイドブック」<sup>6)</sup>が取りまとめられた。この幼児期運動指針では，「適切に構成された環境の下で，幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に，体を動かすことを通して，生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基礎を培う」と謳われ，①多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること，②楽しく体を動かす時間を確保すること，③発達の特性に応じた遊びを提供することが上げられている。そして，幼児が遊びを通して，環境と関わりながら主体的に身体活動を実践することが重要とされている。

このように，3法令や幼児期運動指針が示す内容から，保育現場においては幼児自らが環境に関わり，自発的に活動し，様々な経験を積んでいくことができるような配慮が必要とされ，保育者には，「幼児自らすすんで楽しくからだを動かす機会が持てるような十分な環境設定とその工夫」が求められている。

これらを踏まえ我々は，保育環境の工夫を図ることを目的に，幼児の活動における環境設定について検討してきた。特に，身近にある素材を用いた実践研究を

\* 福岡こども短期大学

すすめており、これまで、「ダンボール」や「布」を用いた遊びの実践・分析を試みてきた。

その結果、基本的動作の検証においては、素材を利用した環境設定は、幼児期に必要な基本的動作を十分出現させ、幼児の多様な動きの経験に繋がることが確認された<sup>7, 8, 9, 10, 11)</sup>。

また、幼児が遊びの中で素材の特徴を活かした操作方法を創意工夫し、様々なイメージを持って遊び込み、活発な身体活動・身体表現遊びへ発展することも確認している<sup>12, 13)</sup>。

これらのことから、素材を利用した環境設定は、幼児自らの主体的な活動を引き出す環境として有効であることが示唆された。

これら先行研究を踏まえ、さらに素材遊びの検証を深めることを目的に、現在、可塑性に富み、保育現場でも幅広い用途で用いられ、幼児にも扱いやすい「新聞紙」を取り上げ検証している。その予備研究において、子どもの遊び込む様子などからこれまでの素材同様、環境設定として新聞紙を用いることは有効であることが推察された。しかし、ただ単に新聞紙を準備し、

幼児の自主性に任せただけでは十分な身体活動に発展しないことが窺えた。特に、イメージを持った身体表現遊びとして十分楽しむまでには到達しないことが示唆された<sup>14)</sup>。

そこで、十分な身体活動とイメージを持った身体表現遊びへ発展するための手立てを検討するために実践研究を計画し、検証することとした。その一環として、本研究では、5歳児の動作分類から検証を試みた。

## 方 法

### (1) 研究対象

対象は、幼稚園・保育園の5歳児である。

### (2) 実施方法












それぞれの園で以下に示す方法で実践研究を行った。

#### 実践①

新聞紙を用いた自由遊びを実施した。遊びの時間は15分間設定した。

【表1】身体表現遊び「忍者になって遊ぼう」実施内容

- ねらい
- 「忍者」をイメージしてダイナミックな動きに挑戦する。
  - 新聞紙の特徴を活かした操作方法を獲得しながら、仲間と一緒に動くことを楽しむ。

段階	指導実践内容	操作と動きの種類	
導入	● 忍者について話を聞き、忍者の修行のイメージを膨らませる		
展開	● 忍者になって素早く動く修行をする	 忍者走りの術	広げて床に置く ⇒ 歩く・走る
	● 新聞紙の上を跳び越える修行をする	 どびこしの術	畳んで床に置く ⇒ 跳び越える
	● 体につけたり持ち上げたりして走る修行をする	 早走りの術	広げて体につける ⇒ 走る
	● 敵から隠れる修行をする	 むささびの術	手で持ち上げる ⇒ 走る
	● 新聞紙を丸めて、望遠鏡をのぞく	 かくれみのの術	体の上を覆う ⇒ 隠れる
	● 剣の修行をする	 望遠鏡	長く丸めて持つ ⇒ 覗く
	● 楯に見立てて投げる修行をする	 剣の修行	長く丸めて持つ ⇒ 振る。振り回す まわす・跳ぶ・回る
まとめ	● 水の中を潜ったり上を歩いたりして修行をする	 遠くに投げる術	長く丸めて捨てる ⇒ 投げる
	● 新聞紙を尻尾や鼻などに見立て、動物に変身して遊ぶ	 水の上を歩く術	長く丸めて口にあてる ⇒ 背中ですすむ泳ぐ
	● 忍者の修行で、いろいろな動物に挑戦できたことを振り返る	 すいごんの術	畳んで半分にちぎる ⇒ 上に乗って滑りながら進む
		 へんしんの術	いろいろな尻尾を作りつける ⇒ 動物になる:這う・転がる・跳ぶ等

実践②

実践①の後、新聞紙を用いた身体表現遊び「忍者になって遊ぼう」を研究者の指導による一斉保育形式で実施した。内容は、指導者と一緒にダイナミックな動きに挑戦する遊びや、新聞紙の特徴を活かした操作方法を使って、幼児が主体的に動く遊びで、50分間実施した【表1】。

実践③

実践②の後、実践①と同じ方法で新聞紙を用いた自由遊びを実施した。

(3) 環境設定

使用する場所については、保育所では保育室、幼稚園ではホールを使用した。新聞紙(80.5cm×54cm)は、幼児が自由に使えるように十分な枚数を準備し、幼児の目にとまるように配置した【写真1】。

また、実践①③における15分間の自由遊びでは、遊びの内容に関しては幼児の自主性に任せた。なお、保育者および研究者(筆者)らは、指導や援助、声かけなどは行わず、安全管理と危険回避のみ行った。

(4) 実施日と人数

- 実践① 2021年9月1日, 5日(自由遊び) 46名
- 実践② 2021年9月29日(身体表現遊び:一斉保育) 49名
- 実践③ 2021年11月1日(自由遊び) 48名

【写真1】遊びをはじめる前の様子



(5) 観察記録

幼児の遊びの様子をビデオに記録し、その映像を基に、遊び込んでいる、あるいは遊びが継続しているものを拾い上げ、その遊びの様子と変化を記録した。記録内容は、遊びの具体的な内容、新聞紙の使い方、仲間との関わりについて記録するとともに、イメージを持って遊び込んでいる時の幼児の言葉や、その様子から幼児のイメージしているものを推測し記録した。

(6) 動作分類とその項目

動作は、石河ら<sup>15)</sup>、および体育科学センター<sup>16)</sup>が示す「基本的な動作とその分類」を参考に先行研究で得られた「動作の分類」<sup>7)</sup>に準じて分類した。分類項目(カテゴリーと動作の内容)については【表2】に示す。

【表2】動作分類とその項目

カテゴリー	動作	動作の内容
安定性	姿勢変化・平衡動作	位置を変えずにその場で行う動作
移動動作 からだの位置移動をとまなうもの	上下動作 水平動作 回避動作	上下に移動する動作 水平に移動する動作 回避的に移動する動作
操作動作 物や人を取り扱う動作	荷重動作 脱荷重動作 捕捉動作 攻撃的動作	物(人)を持ち上げる動作 物(人)をおろす動作 物(人)をつかむ、握る、捕らえて扱う動作 物(人)に強い力を加える動作
複合動作	安定性、移動動作、操作動作の動作が2つ以上複合して起こる動作	

【表3】自由遊びの時間に出現した主な遊び・動き（身体表現遊び 実施前・実施後に出現した遊び・動き）

○：出現

カテゴリーと動作の内容	出現した遊び・動き	イメージ	①実践前自由遊び	③実践後自由遊び	
安定性	姿勢変化 平衡動作	上に寝る(仰向け・腹ばい)	布団	○	○
		上に座る	座布団	○	
		床に敷いた新聞紙の上でままごと	ごっこ遊び	○	
移動動作	上下動作	上でジャンプする	サーフィン	○	
		新聞紙を跳び越える	川に見立てる		○
	水平動作	新聞紙の上を四つん這いで這う	雪・氷に見立てる	○	○
		新聞紙の上を走る	雪・氷に見立てる	○	○
		新聞紙の上を滑る	雪・氷に見立てる		○
		新聞紙の上を走り滑りこむ	スケートボード	○	
回避動作	敷き布団と掛け布団の中に寝るかぶる	布団	○		
		かくれんぼ	○		
操作動作	荷重動作	盾のように新聞紙を持ち、剣を防ぐ	盾, 剣, 戦いごっこ	○	○
		スカートのように腰に巻く	スカート	○	○
		マントにして背中に付ける	ヒーロー	○	○
		広げた新聞紙を頭上に持ち上げる	忍者(空跳びの術)		○
	捕捉動作	畳む・折る・丸める・開く	道具作り	○	○
		長く棒状に丸める	剣	○	○
		棒状にして雑巾のように絞る	雑巾絞り	○	○
		ボール状に丸める	ボール, 爆弾	○	○
		小さく裂いて三つ編みをする	三つ編み	○	
		ちぎって丸めた新聞紙を新聞紙で包む	お店屋さん	○	

なお、本研究の実施にあたっては、事前にそれぞれの園の保育者と保護者に対し研究の趣旨を説明し、ビデオ撮影の承諾と同意を得て実施した。また、その際、本研究における収録映像は、研究のみに使用することも伝えた。

## 結 果

身体表現遊びの実践前(実践①)と実践後(実践③)に出現した主な遊びや動作を整理したものを【表3】【表4】に示す。

### (1) 安定性「姿勢変化・平衡動作」【表3】

安定性の「姿勢変化・平衡動作」とは、位置を変えずにその場で行う動作のことをいう。本研究では、新聞紙の上に寝る(うつ伏せ・腹ばい)、座る等の動作が出現した。

### (2) 移動動作【表3】

移動動作とは、からだの位置移動をとまなう動作のことをいう。本研究における移動動作は、その方向に

よって次のような動きが出現した。

#### 1) 「上下動作」

移動動作の「上下動作」は、上下に移動する動作をいう。本研究では、新聞紙の上を跳び超す、上に乗って跳ぶ等の動作が出現した。

#### 2) 「水平動作」

移動動作の「水平動作」は、水平に移動する動作をいう。本研究では、新聞紙の上を四つん這いで這う、走る、滑る等の動作が出現した。

#### 3) 「回避動作」

移動動作の「回避動作」は、回避的に移動する動作をいう。本研究では、新聞紙をかぶる、敷き布団と掛け布団のようにしてその間に寝る等の動作が出現した。

### (3) 操作動作【表3】

操作動作とは、物や人を取り扱う(操作する)動作のことをいう。本研究における操作動作は、その取り扱い方によって次のような動きが出現した。

#### 1) 「荷重動作」

操作動作の「荷重動作」は、(物や人)を持ち

【表4】自由遊びの時間に出現した主な遊び・動き（身体表現遊び 実施前・実施後に出現した遊び・動き）

○：出現

カテゴリーと動作の内容		出現した遊び・動き		イメージ	①実践前自由遊び	③実践後自由遊び	
複合動作	安定性	上下動作	両手に新聞紙を持ち飛び跳ねる	鳥	○		
		荷重動作	寝転んで体の上に載せる	布団	○		
		捕捉動作	床に敷いて上に立つ(鳥取りジャンケン)	ジャンケン遊び	○		
	操作	安定性	スカートのように腰に巻いて回る	ダンス		○	
	操作・移動	捕捉動作	水平動作	畳んで手で滑る	雑巾がけ	○	○
				畳んで足で滑らせて歩く	水の上を歩く		○
			荷重動作	新聞紙を財布に折って持ち歩く	お買い物	○	
				棒状に丸めて持って走る・追いかける	戦いごっこ	○	○
	操作・移動	荷重動作	水平動作	新聞紙を切り抜き歩く	洋服	○	
				マントにして背中に付けて走る	ヒーロー	○	○
				忍者のように体の前に付けて走る	忍者		○
				広げた新聞紙を頭上に持ち上げ走る	忍者(空跳びの術)		○
	操作・操作	捕捉動作	荷重動作	新聞紙でリボンをつくり頭に載せる	髪飾り	○	○
				新聞紙で兜に折って被る	サムライ	○	
				剣のように棒状に丸めて体前で構える	修行		○
				棒状と球状に丸めて持つ	剣, 爆弾	○	○
棒状にして尻尾にする				動物		○	
棒状に丸め口にくわえる				アニメの登場人物	○	○	
捕捉動作		捕捉動作	攻撃的動作	新聞紙をタオルのようにして首にかける	タオル	○	
				棒状に丸めて振り回す	剣	○	○
				棒状に丸めて持って回る	剣		○
				ボール状に丸めたものを捕る	ボール	○	○
捕捉動作	捕捉動作	攻撃的動作	扇子のように畳んで扇ぐ	扇子		○	
			棒状に丸めてチャンバラをする	戦いごっこ	○		
			棒状にして引っ張り合う	綱引き		○	
			ボール状に丸めて上に投げる	ボール	○	○	
捕捉動作	捕捉動作	攻撃的動作	棒状に丸めて遠くに投げる	槍投げ	○		
			球状のボールを棒状にしたバットで打つ	野球	○		
			小さくちぎり集めて頭上に投げる	雪, 雪合戦	○		

上げる動作をいう。本研究では、新聞紙を盾や剣にして戦う、スカートやマントにしてからだに沿わせる、頭上に持ち上げる等の動作が出現した。

2) 「脱荷重動作」

操作動作の「脱荷重動作」は、(物や人)おろす動作をいう。本研究では、明らかな遊びや動作としては見られず、他の動作の流れの中で床に置く、下ろす等として見られるのみであった。

3) 「捕捉動作」

操作動作の「捕捉動作」は、(物や人)つかむ、握る、捕らえて扱う動作をいう。本研究では、道具づくりとして出現し、新聞紙を畳む、折る、棒状やボール状に丸める、開く、ちぎる等の動作が出現した。

4) 「攻撃的動作」

操作動作の「攻撃的動作」は、(物や人)に強

い力を加える動作をいう。本研究では、主に棒状に丸めて剣にした状態でたたきなど、他の動作と複合した動作として出現した。

(4) 複合動作【表4】

複合動作とは、安定性、移動動作、操作動作それぞれの動作が2つ以上複合して起こる動作のことで、先行研究において確認された多くの遊び(動き)からカテゴリーとして位置づけた動作である。つまり、物(素材)を扱いながらからだの位置の変化や移動が組み合わされて発生する動作で、遊びの多くがこのような組み合わせで起こっており、いわば、操作できる物(ここでは新聞紙)を扱った遊び故のカテゴリーとも言える。

本研究における複合動作は、多岐にわたっており次のような動きの組み合わせの動作が出現した。

- 安定性と移動（上下動作）、操作（荷重動作）、操作（捕捉動作）
- 操作動作と安定性
- 操作・移動動作と捕捉・水平動作
- 操作・移動動作と荷重・水平動作
- 操作・操作動作と捕捉・荷重動作
- 操作・操作動作と捕捉・捕捉動作
- 操作・操作動作と捕捉・攻撃的動作

これら複合動作では、様々な遊びや動きが出現し、新聞紙遊びのほとんどがこれに当てはまるものであった。

## 考 察

保育現場において新聞紙を利用した活動は多い。それは、新聞紙が容易に手に入り、様々な活動に利用しやすいところにある。新聞紙を乳幼児の活動に取り入れる意義についてはいくつか報告があり、橋は「新聞紙には、破る、ちぎる、ねじる、裂く、まるめる、たたむ、投げる、受けるといった指先や手を使った素材の感触を楽しめる特性があり、また、その薄さや柔らかさは、乳幼児をはじめとした子どもの各種感覚を刺激する素材として最適である」とし、遊び素材としての新聞紙の有用性を述べている<sup>17)</sup>。また、赤堀らは、脳科学的観点から手指や足を使う活動・動作は、神経の発達が著しい幼児期には多く取り入れていくべきとし、汎用性の高さから丸める、おる、ちぎる、破る、まげる、ねじる、とばす、描くなど様々な手指の動作を行うことができる新聞紙の運動遊びの道具としての意義を述べている<sup>18)</sup>。

このように新聞紙を活動に用い、その有用性を解く研究は散見され、新聞紙を活動に利用することの意味は大きい。しかし、その多くは指導法や保育者の援助に関する研究がほとんどで、子どもの自発的な身体活動やイメージを持った身体表現遊びを取り上げた実践報告例は少ない<sup>19)</sup>。

本研究の特徴は、新聞紙を用いた環境設定による実践例を取り上げ、幼児の自発的・自主的で十分な身体活動・身体表現遊びに導くための環境設定や手立てを検討した点にあり、実践研究としての意義は大きいと考える。

## (1) 新聞紙遊びの特徴

新聞紙を用いた遊び・活動の特徴としては「操作動作」が多く出現することが分かった。中でも、「畳む・折る・丸める・開く」動作が頻繁に出現した。それは、幼児がまず遊ぶための道具を作ることによるためであった。特に実践①においては座り込んで道具作りに熱心に取り組み、作って満足する姿もみられた。これまでの素材を用いた環境設定における実践研究においても度々みられており、幼児は遊びの中で素材からイメージした遊びや動きを実践するために素材を使って何かを作って遊んだり動いたりすることが多いことを確認してきている<sup>9, 10, 12, 13)</sup>。その中でも特に、本研究で取り上げた新聞紙遊びでは「遊ぶための道具を作る」傾向が強く現れた。

江刺家らは、「新聞紙は、素材として多様な性質を持っており、素材そのものと関わるような活動の他に、その素材をもとに製作したり活動の小道具にしたりと、保育現場で扱われることも多い<sup>20)</sup>」ことを述べ、新聞紙を使った遊びの活動を紹介する保育者向けの書籍も数多く発行されていることから保育の中で幅広い用途に活用されていると報告している。実際に、保育現場での新聞紙の活用率は高く、幼児は普段から新聞紙という素材に触れている。中でも新聞紙を使った製作活動は多く、その体験から、まずは「新聞紙＝作る」という行動がみられたのではないかと考えられた。

この「遊ぶための道具を作る」ことは動作分類にも特徴的に現れており、「操作動作」を中心とした「複合動作」が多くみられている。特に、「操作動作」の「捕捉動作と荷重動作」、「捕捉動作と攻撃的動作」の組み合わせが多く、さらに「捕捉動作と捕捉動作」といった、これまでの素材遊びにはみられなかった特徴が示された。これは、新聞紙が可塑性に富み、簡単にちぎることもでき、軽くて幼児にも扱いやすい素材であることの特徴と考えられた。

## (2) 手立てとしての身体表現遊びの影響

実践①と実践③を比較してみると、共通して現れた遊びも多く、新聞紙という素材の特徴を示すものであった。その一方で、遊び始めにおいては明らかな違いがみられた。実践①においては、始まるなり座り込み新聞紙を使って「折る・畳む」などの動作がしばら



く続いた後、やっと動き出す様子がみられたが、身体表現遊び（実践②）を体験した後の実践③では、はじめからからだを活発に動かし遊び始めていた。特に、「新聞紙を跳び越える」「新聞紙を畳んで足で滑らせて歩く」「広げた新聞紙を頭上に持ち上げて走る」など、実践②で体験した動きを取り入れた遊びが出現し、ダイナミックに活動する姿が散見された。さらに、実践①より実践③の方がイメージを持って自分なりに工夫した動きが多く観察され、十分な身体活動とイメージを持った身体表現遊びへ発展したことが確認された【図1】。よって、身体表現遊びの体験は、幼児のからだを使った遊びに、イメージの広がり、それによる多様な動きの出現をもたらしたことが確認された。高野は、幼児と母親が新聞紙を使って自由に遊ぶ場合には、上肢の運動が引き出される傾向が高いという結果を報告し、より多様な動きを引き出せるような援助の必要性を指摘している<sup>21)</sup>。これらのことから、新聞紙遊びにおいて、幼児がイメージを持った動きを十分に楽しむためには、保育者の手立てが必要で、大切であることが改めて確認された。

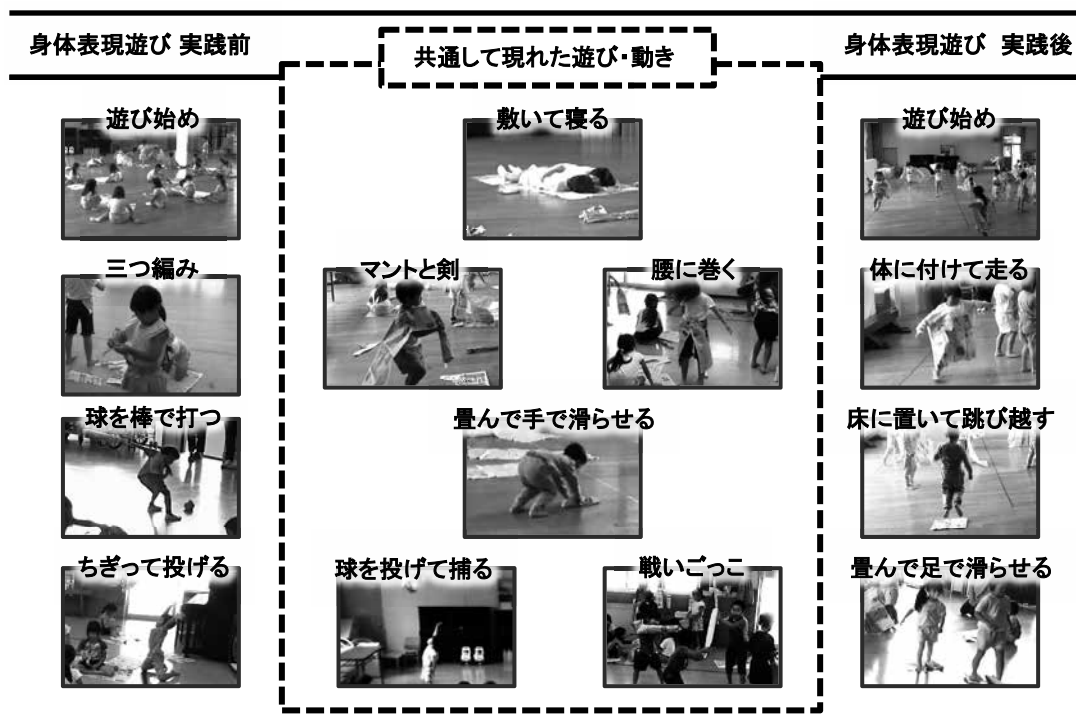
幼児の身体活動・身体表現遊びのねらいは、幼児が環境から刺激を受け、イメージを持って主体的に遊ぶことにある。今回の検証において、幼児は、新聞紙と

いう素材からイメージするコトで遊び、モノを作り出し、その作り出したモノからイメージする遊びに発展する「想像から創造へ、創造から想像へ」を繰り返すことが分かった。そして、それをさらに広げるためには、手立てとして実践した「身体表現遊び」の有効性が示されたことから、保育者の手立てが重要であることが示唆された。

今後、動きの出現をさらに詳しく検証し、様々な年齢との比較などをおして、幼児の新聞紙遊びの発達の特徴を明らかにしていきたい。

### 参考・引用文献

- 1) 文部省：幼稚園教育要領（平成元年告示）、1989.
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針（平成29年告示）、2017.
- 3) 内閣府、文部科学省、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）、2017.
- 4) 文部科学省：体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究報告書、2011.
- 5) 幼児期運動指針策定委員会：幼児期運動指針、文



【図1】自由遊び時の幼児の様子（遊び・動き）

- 部科学省. 2012.
- 6) 幼児期運動指針策定委員会：幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために. 文部科学省. 2012.
  - 7) 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子, 高原和子：5歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要, 28, 19-27, 2017.
  - 8) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 小川鮎子, 小松恵理子：幼児の自発的なダンボール遊びにおける動きの内容. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学, 6, 33-45, 2018.
  - 9) 瀧信子, 矢野咲子, 高原和子, 宮嶋郁恵：3歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要, 31, 1-10, 2020.
  - 10) 高原和子, 瀧信子, 宮嶋郁恵, 矢野咲子：4歳児にみられたダンボール遊びの実態. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編, 21, 29-36, 2020.
  - 11) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 宮嶋郁恵, 本山司：幼児の素材遊びの検討 -ダンボール遊びと布遊びを比較して-. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学, 8, 1-10, 2020.
  - 12) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子：幼児の豊かな身体表現の出現 -ダンボールの有用性-. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編, 19, 67-73, 2018.
  - 13) 高原和子, 瀧信子, 宮嶋郁恵, 矢野咲子：素材を利用した身体表現遊びの検討 -「布」の有用性-. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編, 23, 49-58, 2022.
  - 14) 瀧信子, 矢野咲子, 高原和子：5歳児の新聞紙を用いた身体表現遊びの実践的研究. 福岡こども短期大学研究紀要, 34, 1-9, 2023.
  - 15) 石河利寛, 栗本関夫, 勝部篤美, 近藤充夫, 前川峯雄, 松田岩男, 森下はるみ, 清水達雄, 末利博, 高田典衛：幼稚園における体育カリキュラムの作成に関する研究 I. カリキュラムの基本的な考え方と予備的調査の結果について. 体育科学, 8: 150-155, 1980.
  - 16) 財団法人体育科学センター：幼児の体育カリキュラム. 株式会社学習研究社(学研), 東京, 20-23, 1986.
  - 17) 橋和代：子育て支援の場における新聞紙遊びの提案 -親子関係に着目して-. 有明教育芸術短期大学子ども教育実践研究, 3, 37-47, 2020.
  - 18) 赤堀達也, 林周子：製作と運動遊び ~新聞紙を使った活動例~. 小田原短期大学研究紀要, 47, 264-273, 2017.
  - 19) 畑野裕子, 久山素子：「身体表現技術」の学習内容に関する一考察 -「新聞紙」を題材とした幼児の表現への可能性の検討-. 児童教育学研究, 34, 27-42, 2015.
  - 20) 江刺家由子, 滝澤真毅：幼児への運動遊びの指導 -新聞紙を使った活動を例として-. 帯広大谷短期大学紀要, 52, 11-18, 2015.
  - 21) 高野牧子：幼児と母親への「もの」を使った身体表現の実践的研究. 日本女子体育連盟学術研究, 34, 31-38, 2018.

## 付記

本論文は、「5歳児の新聞紙遊びにおける動作分類から見た運動遊びの手立て」として第76回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。